（所属コード　612302　）

平成 30 年度

「校長経営戦略支援予算配付申請書」

大阪市立木津中学校

校長　向井　秀俊

平成 30 年４月

申請受付日
／

【様式 1】

（所属コード　612302　）

大阪市立木津中学校　平成 30 年度　校長経営戦略支援予算配付申請書（総括）

1　学校運営における現状と課題

○生徒は落ち着いた状況で学校生活を送れている。全国学力学習状況調査等の結果からも自尊感情や自己有用感の高まりが確認でき、このことがベースとなり今の学校の状況を作り上げている。厳しい生活状況の中ではあるが、授業規律は確立されており規範意識も高い。このような状況は、普段のきめ細かな生徒指導や学校行事・学年行事等の運営が土台となっており、引き続きこの状況を維持しつつ、取り組みを進めていくことが必要である。

○課題としては、基礎学力の定着・基本的生活習慣や家庭学習の定着などがあげられ、さらなる授業改善を行い主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、しっかりと家庭と連携しつつ現状を改善していく取り組みが必要である。

○現在本校における生活指導の取り組みについては、生徒や保護者の理解と信頼が得られ非常にスムーズな指導体制が整っている。この現状を維持しつつ、いじめや問題行動が発生しないような未然防止の取り組みを今後も教職員と地域関係諸機関で進めていく必要がある。

2　学校運営の中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合が現在９割以上あり、その割合が維持できるようにする。

○平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「朝食を食べていますか」の項目において、「食べている」と答える生徒の割合を、８割に達するよう各家庭への呼びかけを実施する。

○生徒のアンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答の割合を、平成２８年度の水準を維持する。

○近年、外国からの転入生が多く、ほとんどの生徒が日本語日常会話もできない状況である。これらの生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○平成３３年度の全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率が、全国平均と１０ポイント以上の開きが発生しないようにする。

○平成３３年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、長座体前屈（柔軟性）において全国平均値との開きが大きく、その割合を３ポイント以下となるよう取り組む。

○生徒や保護者アンケートの結果において、「相手の気持ちを考えた発言をするようにしている」や「友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目への肯定的な回答を平成２８年度の水準を維持する。

3　中期目標の達成に向けた年度目標　（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食を食べていますか」の項目において、「食べている」と答える生徒の割合を、６割に達するよう各家庭への呼びかけを実施する。
- 生徒のアンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答の割合を、平成 29 年度の水準を維持する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の７割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において特に課題のある５０ｍ走の校内平均を前年度よりも 0.2 ポイント増加させる。

学校園の年度目標

- 生徒や保護者アンケートの結果において、「相手の気持ちを考えた発言をするようにしている」や「友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目への肯定的な回答を平成 29 年度の水準を維持する。

【その他】

・日本語指導が必要な生徒の学力の向上と基礎基本の定着に努め、外国にルーツを持つ生徒の進路を確実に確保する。

4　29年度の自己評価結果の総括

- 本校における基礎学力の定着と向上は、「全国学力・学習状況調査」の結果からも明らかであり、以前から取り組んでいる音読・言語力や四則計算、理論的思考能力の育成が、加配により少しずつではあるが効果が出てきていると考えられる。習熟度別分割授業やＴＴなどの少人数授業の実施はもちろんのこと、放課後学習会・個人懇談会などによる個人指導も成果を上げている。
- 不登校や教室に入りにくい生徒に対して粘り強くカウンセリングを実施するなどの対応を行っている。
- 「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙調査」では、自己肯定的な回答が多く、自尊感情や規範意識についても肯定的な回答が高い割合を示している。また、生徒は落ち着いた環境で学校生活を送ることができており、どの教科の授業においても、私語もほとんどなく安定した状態で受けることができているが、同調査の「教科（国語・数学）に関する調査」では、平均正答率は大阪市の平均を上回ることはほとんどない。しかし、経年での比較調査を行うと、現中３生が２年前（中学１年時）に受験した「チャレンジテスト」では、大阪市との比較ポイント＜本校生徒の平均得点／大阪市全体の平均点＞は、国語０．８９、数学０．８２であったが、「全国学力・学習状況調査」においては、大阪市との比較ポイントは、国語Ａ…０．９３、国語Ｂ…０．９９、数学Ａ…０．９０、数学Ｂ…０．８３と、上昇傾向が見られた。このことから、本校で取組んでいる日々の学習をはじめ、習熟度別少人数授業の取り組みや水曜日に設定している補充学習、放課後の個別指導を粘り強く丁寧に行っていることが、基礎学力の定着に効果を表してきていると考えられる。
- 欠席の続いている生徒に対しては、学習内容を補充するために学習会等の取り組みを行っている。
- 中国、フィリピン、韓国・朝鮮、タイ等からの渡日・外国籍の生徒が多数在籍しており日本語がまだまだ理解できていない生徒が多く、これらの生徒を日本語教室や識字教室への橋渡しをすること、地域関係諸機関との結びつきを構築して日本での生活が安定するよう、加配が関わり合いを持って関係づくりをしている。
- 生徒会・委員会活動・部活動の活性化を図り、校内における規範意識や自尊・他尊感情の向上に努めている。また、定期的に校内・校外での生徒の情報交換会を実施して、問題のある生徒の実態把握に努めている。
- 道徳心・社会性の育成に関しては、生徒・保護者アンケートで「あいさつ」「規範意識」に関する肯定的回答が昨年同様非常に高い。授業規律が確立した中で学校生活が送れている。「正しい言葉づかい」「時間を守る」でも肯定的回答が昨年以上であった。生徒の行事への参加意欲も高く達成感・成就感も高い。生徒の自主性を重んじ安心した学校生活が送れるよう今後も取り組みを継続する。
- 健康体力の保持増進に関しては、生徒アンケートで「清掃への取り組み」「体や健康についての学習」に対する肯定的回答が昨年同様９割以上である。体育の授業や行事にも生徒は熱心に取り組み、体力の向上・増進に一定の成果が表れている。

5　30 年度の自己評価結果の総括

6　事業執行管理体制名簿

学校長　（ 向　井　秀　俊 ）

教頭　（ 神　山　卓　也 ）

学校事務職員（ 辻　本　　弘 ）

申請受付日
／

【様式２－１】

（所属コード　612302　）

大阪市立木津中学校　平成 30 年度　校長経営戦略支援予算**【基本配付】**配付申請書

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 **全市共通目標（小・中学校）** ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95％以上にする。 ・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90％以上にする。 ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 **学校園の年度目標** ・平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食を食べていますか」の項目において、「食べている」と答える生徒の割合を、６割に達するよう各家庭への呼びかけを実施する。 ・生徒のアンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答の割合を、平成 29 年度の水準を維持する。 **【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】** **全市共通目標（小・中学校）** ・中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の７割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。 ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント増加させる。 ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において特に課題のある５０ｍ走の校内平均を前年度よりも 0.2 ポイント増加させる。 **学校園の年度目標** ・生徒や保護者アンケートの結果において、「相手の気持ちを考えた発言をするようにしている」や「友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目への肯	

定的な回答を平成 29 年度の水準を維持する。 **【その他】** ・日本語指導が必要な生徒の学力の向上と基礎基本の定着に努め、外国にルーツを持つ生徒の進路を確実に確保する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【２．道徳心・社会性の育成】 ・キャリア教育の充実として、１年生で地域の産業である皮革についての学習と、地域の太鼓店見学、２年生で職業講話、職場体験学習、３年生では、自らの進路について主体的に考える姿勢を育てられるよう、計画的に進路指導を行う。	
指標　・進路学習実施後の生徒アンケートで、「有意義であった」「毎日の学習が大切だ」という肯定的な回答を７５％以上にする。	
取組内容②【２．道徳心・社会性の育成】 ・各学年とも１・３学期に「にんげん」集中実践取り組み期間を設け、人権教育年間指導計画に沿って人権を尊重する教育を推進し、人権教育の深化・充実に努める。	
指標　・各学年とも「にんげん」集中実践を終えた後に生徒に対してアンケートを行い、授業に対する満足度や肯定的な評価を指標とする。	
取組内容③【８．施策を実現するための仕組みの推進　】 ・小中連携アクションプランに基づき、「なにわ子ども人権文化祭」や「部活動体験」などで小中一貫教育を充実させ、「小中合同巡視」や「連絡会」などを実施し連携を密にする。	
指標　・年２回以上学校行事で児童生徒の交流を図る。「小中合同巡視」「連絡会」を実施し、教職員、地域の方との交流を図る。	
取組内容④【５．学校力ＵＰ支援事業】 外国にルーツを持つ生徒が普段の授業で困らないよう、日本語指導や基礎基本的な学習能力の向上に努める。	
指標　・海外のルーツを持つ生徒に対して、週１回以上の放課後学習や授業中の抜出指導などを行い、本人が希望する高校に進学ができるよう進路指導を含め、保護者の理解が得られるよう努める。	

29 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・本校における基礎学力の定着と向上は、「全国学力・学習状況調査」の結果からも明らかであり、以前から取り組んでいる音読・言語力や四則計算、理論的思考能力の育成が、加配により少しずつではあるが効果が出てきていると考えられる。習熟度別分割授業やＴＴなどの少人数授業の実施はもちろんのこと、放課後学習会・個人懇談会などによる個人指導も成果を上げている。 ・不登校や教室に入りにくい生徒に対して粘り強くカウンセリングを実施するなどの対応を行っている。 ・「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙調査」では、自己肯定的な回答が多く、自尊感情や規範意識についても肯定的な回答が高い割合を示している。また、生徒は落ち着

いた環境で学校生活を送ることができており、どの教科の授業においても、私語もほとんどなく安定した状態で受けることができているが、同調査の「教科（国語・数学）に関する調査」では、平均正答率は大阪市の平均を上回ることはほとんどない。しかし、経年での比較調査を行うと、現中３生が２年前（中学１年時）に受験した「チャレンジテスト」では、大阪市との比較ポイント＜本校生徒の平均得点／大阪市全体の平均点＞は、国語０．８９、数学０．８２であったが、「全国学力・学習状況調査」においては、大阪市との比較ポイントは、国語Ａ…０．９３、国語Ｂ…０．９９、数学Ａ…０．９０、数学Ｂ…０．８３と、上昇傾向が見られた。このことから、本校で取組んでいる日々の学習をはじめ、習熟度別少人数授業の取り組みや水曜日に設定している補充学習、放課後の個別指導を粘り強く丁寧に行っていることが、基礎学力の定着に効果を表してきていると考えられる。
・欠席の続いている生徒に対しては、学習内容を補充するために学習会等の取り組みを行っている。
・中国、フィリピン、韓国・朝鮮、タイ等からの渡日・外国籍の生徒が多数在籍しており日本語がまだまだ理解できていない生徒が多く、これらの生徒を日本語教室や識字教室への橋渡しをすること、地域関係諸機関との結びつきを構築して日本での生活が安定するよう、加配が関わり合いを持って関係づくりをしている。
・生徒会・委員会活動・部活動の活性化を図り、校内における規範意識や自尊・他尊感情の向上に努めている。また、定期的に校内・校外での生徒の情報交換会を実施して、問題のある生徒の実態把握に努めている。
・道徳心・社会性の育成に関しては、生徒・保護者アンケートで「あいさつ」「規範意識」に関する肯定的回答が昨年同様非常に高い。授業規律が確立した中で学校生活が送れている。「正しい言葉づかい」「時間を守る」でも肯定的回答が昨年以上であった。生徒の行事への参加意欲も高く達成感・成就感も高い。生徒の自主性を重んじ安心した学校生活が送れるよう今後も取り組みを継続する。
・健康体力の保持増進に関しては、生徒アンケートで「清掃への取り組み」「体や健康についての学習」に対する肯定的回答が昨年同様９割以上である。体育の授業や行事にも生徒は熱心に取り組み、体力の向上・増進に一定の成果が表れている。

30 年度への改善点

・少人数授業を実施することにより、非常に落ち着いた学習環境の中で生徒達はのびのび と学校生活を送っている。これらは本校独自の学校内のルールや規則を守ろうとする生徒 の意識が高いとともに、日頃からきめ細かな指導が実施されているためである。今後は「安 全安心ルール」の内容も吟味しながら本校の実態に合わせて取り入れる方法を考えていか なければならない。
・他校においては、「いじめ」「暴力行為 j といった問題が発生しているが、教職員によるきめ細かな指導を行うことにより、事故や事件を早期発見・早期対応・早期解決すること ができている。
・生徒たちは毎年実施する生活アンケートにおいて、「授業は楽しい」「よくわかる」と答える割合が多いが、全国学力・学習状況調査においては大阪府・大阪市平均を下回っており、アンケート調査との開きがあることから学習能力が定着していないことがうかがえる。 そのため今後は家庭学習や復習などに力を入れ、学力がしっかりと定着できるよう指導していきたい。
・本年度は特に外国にルーツを持つ生徒の学力についてカを入れる。日本語の指導・基礎 学力の定着など、放課後学習会・抜き出し指導などの個に応じた指導の充実に向けた取り組みを実

施していく。最終的に生徒ひとり一人が持っている進路が実現できるよう成果を あげていく。 ・道徳・社会性の育成については、生徒・保護者ともに肯定的な答えが多く、授業規律が 確立した中で学校生活が送れている。しかし、まだまだ自分自身の考えや意見を発表する 場が少なく、授業の中でアクティブラーニングを活用した取り組みを実施する必要がある。 ・現在導入されている大型ディスプレイ・プロジェクターを活用した ICT 授業の導入を 取り入れ実施している教科もあるが、今後ますます増加させていく必要がある。 ・体力・運動能力調査においては毎年柔軟性が大阪府・大阪市の平均より大きく開きがあ り、今まで体育授業で実施してきた補強運動の内容を見直し、柔軟性を高められるような 取り組みを実施していく。
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度（今後）への改善点

【様式２－２】

大阪市立木津中学校　平成 30 年度　校長経営戦略支援予算**【基本配付】**配付申請書

学校申請額　７５０，０００　円

※配付上限額(※円単位)

学校配当		学級数		学級配当		特別支援学級数		学級配当
350,000	＋	6	×	50,000	＋	2	×	50,000

配付上限額

＝	750,000

※本様式に加えて、様式 4-1 の提出が必要です。

◆取組内容･予算内訳

取組内容①【２．道徳心・社会性の育成】
・キャリア教育の充実として、１年生で地域の産業である皮革についての学習と、地域の太鼓店見学、２年生で職業講話、職場体験学習、３年生では、自らの進路について主体的に考える姿勢を育てられるよう、計画的に進路指導を行う。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
8-1	皮革産業講師謝礼　　4,300 円×6 時間×2 人	51,600
8-1	和太鼓づくり見学・実習講師謝礼　4,300 円×6 時間	25,800

取組内容②【２．道徳心・社会性の育成】
・各学年とも１・３学期に「にんげん」集中実践取り組み期間を設け、人権教育年間指導計画に沿って人権を尊重する教育を推進し、人権教育の深化・充実に努める。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
12-1	新今宮～大阪城公園往復運賃（学割）180 円×49 人（生徒）	8,820
9-5	新今宮～大阪城公園往復運賃 360 円×8 人（教員）	2,880
14-1	リバティおおさか入場料 100 円×50 人（生徒）	5,000
14-1	リバティおおさか入場料 400 円×8 人（教員）	3,200

取組内容③【８．施策を実現するための仕組みの推進　】
・小中連携アクションプランに基づき、「なにわ子ども人権文化祭」や「部活動体験」などで小中一貫教育を充実させ、「小中合同巡視」や「連絡会」などを実施し連携を密にする。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
13-0	なにわ子ども人権文化祭　芸術鑑賞委託料	150,000
12-4	なにわ子ども人権文化祭　舞台発表ピアノ　調律代	26,000
11-1	小中合同巡視用　ＬＥＤ誘導灯　1,945 円×20 本	38,900

取組内容④【５．学校力ＵＰ支援事業】
外国にルーツを持つ生徒が普段の授業で困らないよう、日本語指導や基礎基本的な学習能力の向上に努める。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
11-1	モバイル書画カメラ　48,000 円×3 台	144,000
11-1	レーザープリンター　トナー　(CANON CRG-33VP 日本語・適応指導教室用）17,000 円×2	34,000
11-1	レーザープリンター　トナー（エプソン LPB4T13 学校力ＵＰ日本語指導教室用）35,000 円×2	70,000
－	学びサポーター経費	189,800

・
・
・

申請受付日
／

【様式３－１】

（所属コード　612302　）

大阪市立木津中学校　平成 30 年度　校長経営戦略支援予算**【加算配付】**配付申請書

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 **全市共通目標（小・中学校）** ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 **学校園の年度目標** ・平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食を食べていますか」の項目において、「食べている」と答える生徒の割合を、６割に達するよう各家庭への呼びかけを実施する。 ・生徒のアンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答の割合を、平成 29 年度の水準を維持する。 **【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】** **全市共通目標（小・中学校）** ・中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の７割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。 ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント増加させる。 ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において特に課題のある５０ｍ走の校内平均を前年度よりも 0.2 ポイント増加させる。 **学校園の年度目標** ・生徒や保護者アンケートの結果において、「相手の気持ちを考えた発言をするようにしている」や「友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目への肯	

定的な回答を平成 29 年度の水準を維持する。 **【その他】** ・日本語指導が必要な生徒の学力の向上と基礎基本の定着に努め、外国にルーツを持つ生徒の進路を確実に確保する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【３、学校図書館の活性化】 図書館機能・蔵書を充実し、読書習慣の定着を図る。ICT 機器を活用し、調べ学習・話し合い活動等の学びを推進する。	
指標　・図書館を原則毎日開館し、利用者数を増やす。蔵書調査・廃棄・充実を適正に行い、より時期やニーズに適した本を提供する。来年度の全国学力・学習状況調査において、同項目で肯定的な回答の割合を今年度より増加させる。	
取組内容②【５、学校力ＵＰ支援事業】 外国にルーツを持つ生徒が普段の授業で困らないよう、日本語指導や基礎基本的な学習能力の向上に努める。	
指標　・海外のルーツを持つ生徒に対して、週１回以上の放課後学習や授業中の抜出指導などを行い、本人が希望する高校に進学ができるよう進路指導を含め、保護者の理解が得られるよう努める。	
取組内容③【５、学校力ＵＰ支援事業】 指導の方法を工夫・改善し、学習意欲を高めるとともに基礎・基本の学力の定着をめざして、相互授業参観と研究授業を実施する。	
指標　・年２回以上の相互授業参観と年６回以上の研究授業を実施する。	

29 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・目標回数以上に１週間を振り返ってのアンケート、教育相談を実施することができた。行うことで、生徒同士の問題や個人の抱えている問題を早期発見、早期対応することができた。また継続することで生徒の生活面での現状を把握することができ、その時に応じた適切な個別指導を行うことができた。 ・定期的な情報交換をすることができ、各学年の生徒の実態を把握することができた。またあいさつや言葉使いも丁寧にすることができ生徒との人間関係も良好だと思われる。学校と関係諸機関との連携については概ね早急に連絡を取り合い適切な対応をすることができた。しかし、不登校生徒が全て改善されたわけではないので今後も綿密に連携を図っていきたい。 ・全校生徒対象の防犯教室をなにわ警察の生活安全課に実施していただいた。防犯教室の中では特にＳＮＳを通して被害に遭う性犯罪について重点的に講話していただいた。また年度末には、難波少年サポートセンターの方から男女に分けて講話をしていただいた。イ

ンターネット上のトラブルや犯罪から未然に防止するための意識がさらに高まった。
30 年度への改善点
・１週間を振り返ってのアンケート、教育相談で生徒の現状を把握することができたが、来年度は生徒同士のトラブルを少しでも未然に防止をすることを重点的に行っていきたい。来年度に向けて１週間を振り返ってのアンケート、教育相談の内容を見直し新たな項目を作成していきたい。 ・次年度も定期的な情報交換を行い、早期発見し適切な対応をできるように努めていきたい。また問題解決の指導より、問題を未然に防ぐ指導を今年度以上に行っていきたい。そのためには今までとは違った研修会を設け学校全体に浸透させていきたい。 ・定期的に情報モラル教育を継続して行うことで効果が表れるので来年度も警察の方を外部講師として招き、防犯教室を行う予定である。また教育相談などのアンケートの中でＳＮＳに関する項目を付け加え、常に生徒の実態を把握することに努めなければならない。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度（今後）への改善点

【様式３－２】

大阪市立木津中学校　平成 30 年度　校長経営戦略支援予算**【加算配付】**配付申請書

学校申請額　　2,586,000　円

◆取組内容･予算内訳

取組内容①【３、学校図書館の活性化】
図書館機能・蔵書を充実し、読書習慣の定着を図る。ICT 機器を活用し、調べ学習・話し合い活動等の学びを推進する。

取組内容②【５、学校力ＵＰ支援事業】
外国にルーツを持つ生徒が普段の授業で困らないよう、日本語指導や基礎基本的な学習能力の向上に努める。

取組内容③【５、学校力ＵＰ支援事業】
指導の方法を工夫・改善し、学習意欲を高めるとともに基礎・基本の学力の定着をめざして、相互授業参観と研究授業を実施する。

予算内訳

予算費目	予算内訳明細	申請額(※円単位)
18-2	スチール製ブックトラック　＠50,000×15	750,000
18-3	書籍　全 850 冊	1,836,000

【様式３－３】

大阪市立木津中学校　平成 30 年度　校長経営戦略支援予算**【加算配付】**配付申請書
（補足説明資料）

『習熟度別読書により、読解力を向上させよう』
～絵本や図鑑で日本語を学び、学力向上をめざす～

1. 本校の現状

本校には日本語指導の必要な外国からの渡日・来日の生徒が多く在籍しており、全校生徒の約３割が外国にルーツを持つ生徒で、国語をはじめとする読解力を要する社会・理科などの教科に特に課題がみられる。なかには、片言の日本語が話せるだけで、日本語の読み書きがほとんどできない生徒もいる。

また、生活保護や就学援助を受ける経済的に厳しい家庭が多く、家庭で読書の習慣がないまま育った子どもが多い。日本は豊かになったとはいえ、毎日の生活に苦労している家庭にとっては、本はまだまだ高価なものなのである。

学力調査の結果を見ても全国や大阪市の平均と大きな開きがあり、基礎基本の学力が不足しているという現状である。

２．取り組み内容の必要性

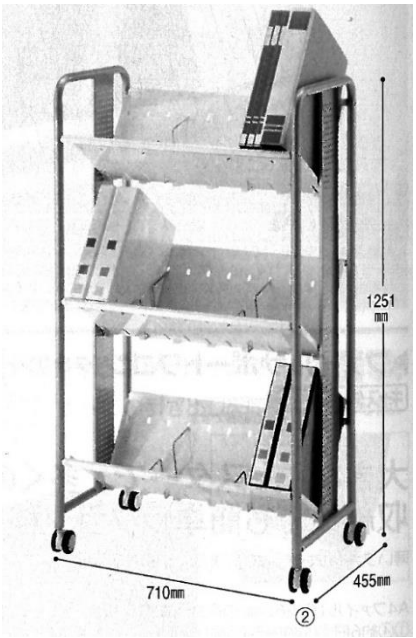
本校の子どもたちの日本語の能力には大きな差がある。しかしながら、すべての子どもたちに言えることは読解力の弱さである。これからの厳しい世の中をたくましく生き抜くためには、コミュニケーション能力が必要である。そのためにも、本校の多様な子どもたち一人一人のニーズに合った読書環境を整えて、自分のペースで読書を楽しむ中で、日本の伝統や文化を学びつつ、読み取る力をつけさせたい。

読書環境を整え、いつでもどこでも、自分のレベルにあった読書を続けることにより、本校の子どもたち全員の学力向上にも繋がるものと確信している。

３．具体的方策

〇学級文庫の充実

どの学校にも図書室はある。しかしながら、常に開放しているわけではなく場所も遠い。また、残念ながら子どもたちの興味を引く新しい本は少ない状況である。そこで、各クラスの廊下にスチール製のブックトラックを設置して、短い休み時間でも希望する本が読める環境を作る。



〇絵本や図鑑も選定

一人一人の子どもたちのニーズに合った本を揃えるために、ひらがなで読みやすい絵本や図鑑も学級文庫に取り入れる。日本語が分からなくて教室で孤立しがちな子どもが、これらの本をコミュニケーションツールとして、クラスの仲間とともに日本語を習得していく子どもたちの姿が目に浮かぶ。多様な子どもたちが通う学校であるからこそ、多様な図書を選定する必要があると考える。

〇空きスペースを利用した自由読書コーナーの設置

これまで図書室以外に、読書をゆっくり楽しめる場所がなかった。そこで空きスペースとなっているエレベーターホールにスチール製ブックトラックを並べて、自由読書コーナーを設置する。現在校内にある机・椅子を使い、ゆっくり座って読書を楽しむことができる空間となる。図書室が開館していなくても、いつでも気軽に読書ができる。また、移動式であるため、学級用図書との入れ替え等もスムーズに行うことが可能となり、レイアウトも自由自在である。

４．期待できる効果

これまで、図書室の活性化など、読書量を増やす取り組みを行ってきた。しかしながら、読書が好きな子どもと嫌いな子どもの二極化傾向があるのが現状である。また、中学校であるがゆえに絵本や図鑑が少なく、本校に在籍する日本語を勉強中の子どもたちにとって適切な図書が少なかった。そこで、すべての子どもたちにとって読んでみたい本を揃え、「いつでも・どこでも自由に読書」ができるようにして、子どもたちの読書意欲を喚起したい。きっと読書の楽しさを知ることで一人一人の読書量が増え、読解力の向上、そして学力の向上を図ることができることであろう。決して恵まれた環境ではない本校の子どもたちに、将来たくましく生き抜く力をつけるために、是非とも私の戦略を実現させたい。